

おがえり愛媛通信

Welcome home!

発行 ● 愛媛ふるさと暮らし応援センター

Vol.10

2012
平成24年3月

最優秀賞

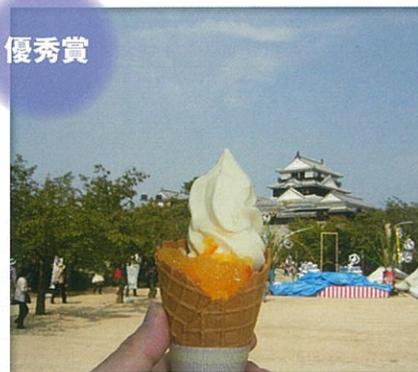


「人間回復の旅 一日双海人」
寺本 克彦様(広島県)

えがえり
愛顔の
えひめで
暮らしたい!

「愛媛暮らしの魅力体験 フォトエッセイ」入賞作品発表!

優秀賞



「銀天街で暮らしたい」
山世 孝幸様(北海道)

優秀賞



「その時、あらしに出会った。」
三宅 康裕様(岡山県)

佳作



「多島美に魅せられて」
桜井 映子様(神奈川県)

佳作



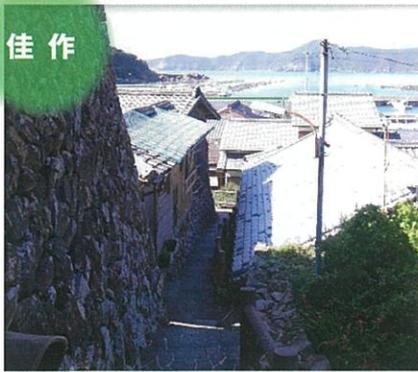
「自慢のふるさと」
寶代 純子様(神奈川県)

佳作



「やさしきにつつまれて」
原 弥生様(大阪府)

佳作



「豊潤な海、ふるさとの海」
小林 なおこ様(東京都)

佳作



「産業遺産ある「愛」の町」
奥原 十三様(東京都)

愛媛を訪れたことのある愛媛県外在住の方を対象に当センターが募集しておりました「愛媛暮らしの魅力体験フォトエッセイ」の入賞作品が次のとおり決定しました。愛媛の良さが伝わる素晴らしい作品ばかり。ぜひご覧いただき、えひめの魅力を発見してください。

「最優秀賞」と「優秀賞」の作品については次ページで紹介しています。

その他入賞作品は、えひめ移住支援ポータルサイト「e移住ネット(<http://www.e-iju.net/>)」に掲載しておりますのでご覧ください。

人間回復の旅 一日双海人 ふたみんちゆう

最優秀賞

寺本 克彦

7月初旬、例年なら梅雨末期の大雨に見舞われるところだが、日ごろの行いか、椿さんの御利益か、私の小旅行を快晴の愛媛が迎えてくれた。

広島からの高速船はとても快適で、島々を眺めているうちに、あつというまの瀬戸内海横断となる。港が町の玄関というのも風情がある。

私にとっては、30年前、片思いの彼女に告白もできず、寂しく旅立ったセンチメンタルスポットである。港に恋あり、物語りありと、ひとり勝手に思いをはせながら観光港に上陸。待合室には、愛媛の友人が迎えに来てくれていた。

今日は、愛媛の若い仲間たちが、折角の休みをつぶして、おじさんの小旅行に付き合ってくれるのである。

彼女たちの本日の企画は、『一日双海人(フタミンチュウ)』伊予市双海町を満喫しようというものである。

夕日のまちづくりを少しは聞きかじっているが、どうせ道の駅の成功事例ぐらいだろうというのが正直なところ。その道の駅「ふたみシーサイド公園」で、本日の同行仲間が集合、総勢7名の大旅行となった。

道の駅の視察から始まるかと思いきや、7人を乗せたワゴン車は海岸沿いを南下、旧道に入って、少し登ったところにあったのは、夕日の駅「下灘駅」。

無人の駅のベンチに気持ちよさそうに寝ている青年を発見。なんと彼は8人目の同行者であった。ローカル線に乗ってやってきて、瀬戸内海を一望しながら、最高の昼寝をしていたのである。みんなで「下灘駅」のすばらしさを満喫させていただいたのはもちろんのこと、いろんな衣を脱ぎ捨てて、心を開ききっての仲間旅の始まりである。



▲下灘駅

8人になったワゴン車は、一路山間部へ、双海にこんな山間部があるとは驚きである。

着いたところは、翠小学校。愛媛で一番古い木造校舎をエコ整備した学校とのこと。

二宮金次郎に迎えられ、校舎に入ると、まずはオープンな木の廊下。木造は、やっぱりこれ、雑巾がけの衝動にかられるのは、私だけではないはずである。有料雑巾がけ体験を提案しておいた。

木のぬくもりの中で学ぶことで、やさしい人間が育つという、すばらしい教育環境に

感激、そろそろ大きなお腹がすいてきた。

次の訪問先はピザ屋とのこと。こじやれた建物を予想していたが、着いたところはビニールハウスのど真ん中、なんと農家の皆さんが経営する石釜のピザ屋である。

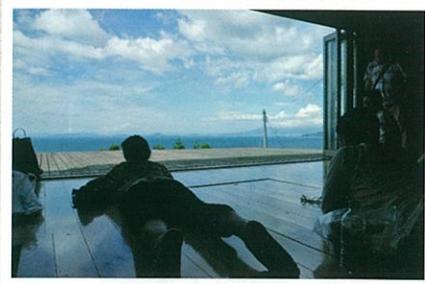
すぐに食べさせてくれるのかと思ったら、なんと自分で作れという。53歳中年おじさん、初めてのピザ体験である。悪戦苦闘して、8人で別々のピザを作り、8種類の自作ピザを味わうことができた。素材やソースも全て自家製。味噌だれや夏野菜など、おじさんの舌にもピッタリ、農村ピザ体験、はまりそうで怖い。



▲ピザ体験

そのまま、近所のブルーベリー園へ行きデザートタイム。そこからワゴン車は山登り。海岸から延々と上り続け、山の斜面に農家が点在する集落を抜け、みかん畑の中をくぐると、前面には、大きな大きな瀬戸内海、遠くの島まで一望できる絶好のロケーション。

するとそこには、五右衛門風呂の展望浴場や研修棟。そう、ここは地域づくりの人材育成の場「人間牧場」。瀬戸内海へ張り出す大きなウッドデッキに寝そべり、自然の壮大さを感じながら、さまざまな学びを行う場なのである。大自然の中で頭を空っぽにし、愛媛の友人たちと熱く語り合うことができた。



▲人間牧場

下灘駅で心を開き、木造校舎で感じ、農村ピザを味わい、人間牧場で学んだ。

日ごろの俗世を忘れ、人間らしく感じ、人間らしく学ぶことにより、気持ちがどんどん優しくなっていくのが、自分でもはっきりと感ずることができた。

やさしくて大きい自然、そしてやさしい仲間たちという愛媛のお宝に抱かれ、私の小旅行は、やさしくなれる旅 - 人間回復 - の旅となったのである。

解散の前に、浜辺で皆で食べたジャコ天の味、愛媛の優しさの味として、私の心につまでも残るだろう。私の宝物 愛媛の仲間たちに感謝し、私の旅行記をお開きとする。